



最近とっても奇妙なことが起こります。運転やデスクワーク、それに家で読書なんていう普通のことをしていているとき、突然パニックに襲われるのです。こぶしは握りしめたまま、心臓はバクバク。ゆっくり深呼吸しないと気が静まりません。一体、どうした？なぜそんな発作に襲われるのって？それがあいにく自分では理由がわかっています。

この町に来て3年、とうとう帰る日が来たからです。こんなに慣れ親しんだあれこれを全部置いていくなんで信じられない気持ちです。いろんな意味で来たときよりも去る今のほうがつらい。でも決まったことをなげいても仕方がない。

ただ、この素晴らしかった3年をしっかりと胸に、未来を大切にしていだけます。この滞在をこれほど思い深いものにしてくれた全ての人に心から感謝します。本当にたくさんの方が手を貸してくれました。そして、ここに特に感謝したい人がいます。初めてこの町に来たとき、個人のお宅に2週間滞在しました。そのとき以来お世話になっているホストファミリーのお二人です。3年間わが子のように接してくれてありがとうございました。変わらない親切を忘れることはないでしょう。

さあ、もう別れのときです。絶対忘れることはないでしょう。私の一部になったこの町を。ありがとう、東川！

Thank-you Higashikawa!



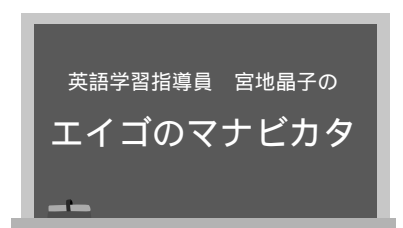
おしゃべり 海川

Lately the strangest thing has been happening to me. I'll be doing something normal such as driving my car, sitting at my desk or reading at home, when suddenly a wave of panic will hit me. My fists are clenched, my heart is pounding and I have to take slow deep breaths to calm myself down. What on earth is happening, right? What could be causing these random attacks? Unfortunately I know the reason. My three years in Higashikawa are coming to a close and I have to go home. It's hard for me to believe that I'm going to be leaving everything that is now familiar to me. In some ways it's going to be harder going home than it was coming here. However, I cannot lament over this inevitable occasion. I can only embrace my future while holding these past three wonderful years close to my heart. I want to send a big thank you out to everyone who has made this experience so memorable for me. There are so many of you who helped me along the way. In particular, there are two people who I'd like to send a special thank-you out to. When I first came to Higashikawa, I stayed with a host family for about two weeks. They have taken care of me ever since. To my host family, thank you for treating me like your own child over the past three years. I will never forget your unending kindness. Well, the time has come! I will never forget this town. It has become a part of who I am. Thank you Higashikawa.

「教科書にふりがな振らせていますか？」よく聞かれるけど、答えにくい質問。カタカナと英語の音は決して一緒ではない。むしろ、その違いこそが聞き取りのポイントです。だから、できれば振りたくない。絶対ダメ！と言う先生もいます。

でもね、実は私は振り振り派です。カタカナ付き単語プリントだって配っちゃおう。だってこれがアラビア語だったらどうでしょう。点だの線だの暗号みたい。

教室で1、2度読んだからって家でもう1度読めますか。それが、もしカタカナが付いていけば、それを頼りになんとか音読練習ができるというものです。多少日本語風の発音になってもいい。とに



第27回

振り仮名をふるか否か、それが問題だ!?

同じ理由でこの本も薦めます。ベストセラーになった「声に出して読みたい日本語」の著者、斉藤孝さんの「英語を『じゅげむ』みたいにおぼえちゃおう！」もちろん振り仮名付きです。安心して心ゆくまで音読しましょう。

かく読むことです。十分なトレーニングで最終的に目標地点に到達できればいいのです。次の時間にふりがななしで本文が読めればそれでいい。量が質を作るので、数をこなせば発音も良くなります。

フォニックス（音と文字の関係の規則性）を習得する十分な授業時間があればいいですが、実際には学校の勉強は待たなし。文章がどんどん入ってきます。とにかく読めるようにしてやるのが先決です。

そんな風に思っていたら偶然、新聞にこんな文章を見つけました。「小学生新聞は漢字に振り仮名がついています。これを毎日読んでいます。これを毎日読んでいます。これを毎日読んでいます。漢字だって英語だって一緒です。」